

## 神足氏のスピーチの内容について

### A はじめに（ITTOはどのような世界情勢の中で生まれたか）（口述）

1. 第二次世界大戦後の基本的な課題
2. ITTOの誕生につながる多国間の動き

（森林・林業の調査・討議への参加を中心にして）

### B ITTAの成立経過

1. 一次産品総合計画に基づいて

（1）1976年5月30日に第4回国連貿易開発会議（UNCTAD）の総会がナイロビで開催された。この会議で決議93号として採択された「一次産品総合計画（Integrated Programme for Commodities: IPC）では、参加国のごく少数の反対、棄権はあったものの、大多数の先進国及び途上国の賛成で成立した。

（2）このIPCでは、開発途上諸国が、特に輸出関心を有するコーヒーその他6品目の農産物、銅その他5品目の鉱産物、更に天然ゴムその他3品目に熱帯木材を加えた計18品目を対象として、それぞれの国際緩衝在庫調整、価格対策、多角的供給対策、買付約束、生産面での多様化、加工度向上、保証融資スキーム等の国際的措置を単一にあるいはいくつかの組み合わせによって行うことを骨子としている。

（3）更にIPCは、国際商品協定を一定の目的対象品目、交渉方式、日程に従い、総合的に取り組むことを提唱するものであり、また、IPCは、生産国・消費国の双方または先進国・開発途上国の双方でその実施を図ることを趣旨としている。

## 2. 国際熱帯木材協定の成立に向けて

(1) 国際熱帯木材協定 (ITTA) は、1976年5月30日にUNCTAD総会で採択されたIPCに関する決議93号に基づき、1977年から1982年の6年間9回に及ぶ予備協議の結果、UNCTAD事務局長によって召集された2回の国際熱帯木材機関会議（その第1回は1983年3月14日から31日、第2回は同年11月7日から18日）において、が64カ国（生産国32カ国、消費国32カ国）の参加の下、採択された。かくして1984年4月10日、国際熱帯木材協定は成立し、協定に基づく第一回理事会において、7か所の事務局設置候補地の中から投票の結果、横浜市が所在地に決定され、1987年1月、ITTO初代事務局長としてフリーザイラー氏が着任し、ITTOは活動を開始した。

(2) ITTAの成立が他の品目と比較して時間を要したのは、「熱帯木材」の定義をはじめその多様な対象品の価格、更には緩衝在庫調整については「熱帯木材」が他の18品目の多くと異なった事情（他の作物と異なり一部木材の収穫期の多様性、また、現実の在庫調整上の難点があること、等）にある等、基本的課題の討議が多々あった故でもある。

C 終わりに（私と熱帯雨林、ITTOの発展を祈って） （口述）